



2003・①

雪たねニュース

北海道版 No.287

今月の主な目次

- 北海道酪農の可能性を探る
- サイレージ用トウモロコシ
- 牧草優良品種の紹介
- 自家菜園で活用できる雪印野菜
- ネオデント・ニューデントの紹介

ごあいさつ

平成一五年の新春を迎え、皆様のご健勝と、ますますのご繁栄を祈念申し上げ、併せて本年も相変わらませぬご愛顧と、お引き立てを賜りますよう、切にお願い申し上げます。

今年の春に、「食」と「農」の再生プランが発表され、引き続き六月には、再生プラン工程表が示され、食の安全と安心確保のための法整備や行政組織の構築がスタートしております。

農業生産との関連では、**食品安全基本法**(仮称)の趣旨に則し、生産段階での安全確保のための関係法(飼料安全法や農薬取締法、等)見直しが進められています。また、農林水産業や食品産業等について、包括的には、従来の生産振興(↓廃棄物の産出)から生物系資源の持続的活用(↓バイオマスの総合的な利活用)へと抜本的な転換が進められることになり、それらへの対応が迫られてきます。

このような状況のもとで、我が社の取り組みの一部をご紹介致しますと、釧路にて、弊社と日本農産工業、三菱商事の三者出資による飼料生産会社「道東飼料」を起し、新工場の建設を進めて参りましたが、この新春より、本格的な製造と供給を開始する運びとなりました。牛用配合飼料に特化した大規模工場、BSE対策の数々を

網羅した内容となっております。

一方、種子の精選・加工・包装・発送システムと恒温恒湿貯蔵庫を含む『札幌種子センター』の移築整備が昨年一月に完了し、稼動がスタートしております。種子センターとしては、千葉センター、熊本センターの整備に続くもので、拠点整備がほぼ完了したことになります。これらの一連の整備によって、品質が安定した製品・種子のご提供はもとより、顧客の皆様、更には消費者の皆様への、**安心と信頼**をお届けできるよう、施設の有効活用と従業員の意識高揚に努める所存です。

最後になりましたが、昨年一月に発覚しました、雪印食品の食肉偽装事件につきましては、多大なご迷惑とご心配をおかけし、誠に申し訳ございませんでした。深くお詫び申し上げますとともに、企業倫理の確立と実践に努め、皆様に愛される企業を目指し、従業員一丸となつて努力することをお約束致すところです。相変わらませぬご愛顧とお引き立てを賜りますよう、重ねてお願いを申し上げます、新年のご挨拶と致します。

平成一五年 元旦

雪印種苗株式会社

取締役社長 菊地 庸